

## 日佐校区人権講演会の報告

先日、日佐校区人権尊重協議会主催の講演会がありました。

日時：2016年9月17日（土）14：00～15：30

場所：日佐公民館 講堂

講師：福岡市総合相談センター 嘱託相談員 木村 素也

今回の講演のテーマとして『「不登校」になるのは特別な子ども？』～一人で悩まずみんなで考えよう～ということでお話をさせていただきました。文科省が「どの子にも不登校になる要素を持っている」と認めてから15年ほどが経ちましたが、いまだに「特別な子どもが不登校になる」「個人の資質や育て方の問題」「本人の怠けや努力不足・あまえ」「保護者の甘やかしや過干渉・厳しき不足」などととらえている人もおられます。不登校の子どもの実態がよくわからず、地域の関心は高いのですがどのように接していいのかわかっているという声も出ていました。大人目線からどうしてあげたらいいかというより子ども目線から何がしてほしいと思っているのかを考えること。少しものの見方を変えただけで困っている子ども本当の姿が見えてくるかもしれません。

大人は子どもを経験しています。しかし、その時のことはすっかり忘れて子どもに接してしまいます。しかし、子どもは経験不足ですから大人が言ったことをまともに受けとってしまいます。たとえそれが励まそうとか、よかれて思ってたことでも、子どもには不安をあおる言葉に聞こえることもあります。自分が言った言葉は子どもからどうとらえられているかを考えることで伝わり方も変わるものです。どんなに正論でも時期によっては受け入れがたい時もあります。経験豊かな大人だからこそ、そのあたりを配慮しながらうまく子どもに接して育てていってもらえばいいのではないのでしょうか。

\* 困っている子どもや 保護者 が周りにいませんか？

\*子育てに 失敗はありません。一人で 悩んだりしないで ！



### 28.9.17 人権講演会感想の一部を紹介します。

1. 今、まわりを見回せば不登校の子どもがたくさんいます。正直、私の子どもが小、中学校の頃はこんなことはなかった気がして、世の中どうなったのか？と思い、今日参加してみました。最近の

世界の子どもの比較をニュースなどでも深刻に感じていましたが、実際そうだったことに驚きました。私自身が考え方をかえたいと思いました。(50代女性)

2. とても詳しいお話をありがとうございました。胸に突き刺さる言葉もあり、反省している所です。これから生活にもいかしていきたいです。また、ぼちぼちの会に参加刺せて下さい。(40代女性)
3. 子どもがストレスを感じている環境、自分の肯定感が低いという現実があることをふまえて、子どもたちと接しなければならないなと思いました。(30代女性)
4. 不登校の子、ひきこもりの人を地域で見守ることの大切さはよくわかるが、うまく対処できるか心配。(70以上男性)
5. 子どもをコントロールしようとしていた自分に反省しました。今日はお話を聴けてよかったです。(40代女性)
6. 不登校になる原因ははじめだけではないと分かりました。だけど、自分に甘さのあることを教えてほしい。昔の子どもたちは、家に居ると、家の仕事の大変さがわかるから学校に行った方が楽しかった。今後、地域の人たちとの交わりを多く持ち、子どもたちと話をしたい。(60代女性)
7. 不登校に対する見方、考え方が変わった。「自尊感情」の大事さをますます感じた。(60代女性)
8. 不登校の背景にはいろいろあることが分かりました。難しいですね。でも、お話を聞いて自分でできることが少しわかった気がします。(50代女性)
9. 他ではなかなか聞けないお話でよかったです。また機会があれば聞いてみたいです。(40代女性)
10. 子どもとの会話をマメにする。子どもの気持ちを大切にする。(70以上女性)
11. 子育てがよくわかりました。(70以上女性)
12. PTAの方や保護者の方にたくさん参加してほしいですね。親が自分の子どもに対する見方が変わると思います。(60代男性)
13. 「その子を変えようとしなさい」小学校の教員をして日々不登校の子どもと関わっていますが、とても参考になりました。(40代男性)
14. 大人が支援していくことの大切さをすごく感じました。寄り添っていきたいと思います。(50代女性)
15. 息子が1学期登校しぶりがあり悩んでおりました。今は行けていますがまだまだ心配です。私のルールにのせようとしています。すごく勉強になりました。(40代女性)
16. 先生の体験から分かり易くよい勉強になりました。続きをまたお聞きしたい。(70以上男性)
17. 不登校になる子どもは、学校でのいじめや、いやがらせ、いやな先生等の問題だと思っていましたが、今日の講演で子どもの目線で見ると考える等、いろいろ考えさせられました。(60代男性)
18. 不登校だった2年間から4年経った今も、当時、息子が何に困っていたのか聞かず、わからずじまいです。忙しさにかまけて、必要な情報を集め、与えてあげることなく「自分で決めないと頑張れないから」とおどしつづ進路を決めさせていました。今はやりたい勉強をしています。これから少しずつ自信を持って、ストレスに強い大人になっていくよう、見守り、手助けして行きます。また、地域の一員として、普段からできるだけ子どもたちに声を掛けて、行き場のない、困っている子どもの味方になれるよう、努めたいと思います。(50代女性)